

H. P. Report

第9号

発行責任者 三菱電機株式会社 北陸支社 官公システム課 稲崎義明

Windows meについて (1)

今月の23日に95、98、98SEと版を重ねてきたWindows 9×シリーズ最後のOS、Windows meが発売となります。Windows meはWindows 98のときのように話題にはなっていませんが、このあとは現在発売となっているWindows 2000の次版に吸収されることになっていることもあり、どのような位置付けなのかを含めて解説してみたいと考えています。

Windows meは最後のWindows 9×シリーズのOSといわれています。これは、もともとのWindowsのアプリケーションをハードウェアから独立させるための方法として、API（アプリケーションプログラムインターフェース）と呼ばれるインターフェースを介して実行するように設計され、直接アプリケーションがハードウェアを意識する必要が無いようになっていますが、このAPIにはWindows 3.0/3.1当時の16bit CPUに対応したWin16とWindows 95/98当時の32bit CPUにも対応したWin32があります。このうちWindows 95/98はWin32ばかりでなくWin16とその前のOSであるMS-DOSとの互換性を保ちながらWin32の32bit環境への移行を促そうとするもので、16/32ビットアーキテクチャーを採用したOSといわれています。この点でWindows meは16/32ビットアーキテクチャーを採用したOSであることからWindows 9×シリーズのOSといわれています。また、OSの中心となるメモリ管理やタスク管理などの基本機能を実現するカーネルはWindows 98SEのものをそのまま使用していることから、Windows meはWindows 98SEのマイナーバージョンアップ版ということもいえ、Windows 98 Third EditionであってもおかしくないOSです。マイクロソフトにはこのWindowsとはちがう系列としてWindows 2000（元Windows NT 5.0）がありますが、こちらは最初から32bitに対応しています。こちらのOSははじめからビジネス用に作られているため、ログインユーザごとのシステム環境、セキュリティなどごく普通に使用するにはいろいろな制約があるため遊びに使おうとした場合使いづらい面はありますが、ビジネスに使用する場合に必要な機能が整備されているということが出来ます。それに対してWindows 9×シリーズのOSは、もともとがMS-DOS上のWindowsを拡張したものであり、ユーザログインの機能にしても個人環境を認識するわけではなく、ユーザパスワードを知らなくても起動することが出来るなど一般向け、コンシューマ用のOSとして拡張されてきています。しかし、マイクロソフトは来年には新Windowsとして開発コード「Whistler」を発売することになっています。このOSは、現在のWindows 2000の次版に位置するもので、32bitへの完全な対応と64bitアーキテクチャーへの対応をおこなうもので、マイクロソフトはこのOSでビジネス用とコンシューマ用のOSの統合を図ろうとしています。その面からいえばWindows meは中途半端なOSということもできるのではないのでしょうか。とはいえ、いろいろと新機能も追加され、使いやすさ、システムの信頼性の向上も図られているようですから、多少発売の前後で情報が今さらということにもなりかねませんが、21世紀を迎えるにあたり登場しようとするOSについてしばらく解説してみたいと考えています。

(次回へ続く)

(情報誌トピックス)

○日経エレクトロニクス 9月11日号

特集 ハードウェアとの決別

→ハードウェアが一定の性能を超えた段階で、ユーザのニーズに即応したシステムの開発はソフトウェアが中心になってきている。企業側もソフト開発を中心とした体制に移行している。

特集 CDとMDの「2倍規格」は本命か

→CDやMDの容量を2倍にする規格が相次いで登場している。たかが2倍でDVDには遠く及ばないが、価格は安いが実際受け入れられるものなのか評価が分かれている。

○日経パソコン 9月4日号

特集 定番ソフト50のワザ

→ちょっとしたことで使いやすくなる機能がなかなか見えにくいところにある。定番ソフト8製品について隠れた便利な機能50を紹介。たとえばWordの余計なオートフォーマットをきるなど。

特集 ネット対応 携帯電話の選び方、使い方

→インターネットが使えて、メールも利用できる「ウェブホン」。まずは各機種の違い、コンテンツの実力を知り、選び方、使い方を考える。

ゼミ ネットワークでスキルアップ

→インターネットを使った教育サービスがいろいろある。インターネットで遊ぶばかりでなく、英語の勉強から留学まで。

○日経パソコン 9月18日号

特集 Windows Meの実像に迫る

→9月23日に発売となる新OS。新しいものに飛びつくのは得策か。トラブルを回避、解決するためにはどうするか。新機能を含めて実像に迫る。

特集 定番Webサイト大全

→検索サイトから、新聞、交通機関、金融などのサイトまで。BP社独自のアンケート結果による定番サイトの特集。

○日経オープンシステム 9月号

特集 サーバ・サイドJavaの実力を探る

→アプリケーションの開発はサーバサイドに集中してきている。開発環境としてはCGIを使ったものなどいろいろあるが、生産性の高さ、オープン性、将来性を求めてJavaの採用が増えてきている。しかし実際には遅い、開発しづらいなどの声もあり、実際その実力はどの程度のものか。

活用 セキュリティ向上のカギをにぎる「PKI」

→本人認証からデータの暗号化まで、セキュリティの基盤技術である「PKI」。これからもっと重要になるセキュリティでどのように使われているか。

○日経ネットビジネス 10月号

特集 E-マーケットプレイスを120%使いこなす

→インターネットを使って売り手と買い手を結び付ける「e-マーケットプレイス」。企業間ECとして続々オープンしている。相手の顔が見えない取引となり、スポット市場からの安価な調達や余剰在庫の処分などメリットもあるがリスクもある。今後の企業間取引は「E-マーケットプレイス」がとって代わる。

トレンド ECの配送料「配送はタダ」が業界を席けん

→書籍や音楽CDなどのように本来価格値下げで競争できないものについて、配送料無料とするところが増えてきている。もうすでに身近なところまでECはきている。

○DOS/V magazine 10月1日号

特集 高速LAN最適導入

→家庭でも複数のパソコンがある時代。取り扱うデータも大きくなってFDでは持っていけない。そろそろ家庭でもLANを導入しようとする場合の基本的用語説明（スイッチングハブとは何かなど）から実際のネットワークの構築、外部との接続まで。

特集 情報整理の達人

→パソコンの導入で逆に増えつつける紙のデータ。スキャナが安くなり、HDDが大容量になってようやく使えるようになるか電子ファイリングのやり方。

特集 楽々こなすHDDバックアップ

→HDDのクラッシュに備えるバックアップ。しかし、個人のパソコンではなかなかやらない。自動的な方法も含めて、HDDが大容量になって必要となってきたバックアップについて。